

レースレポート

11月18日(日) 富士スピードウェイ 天気: 晴れのち曇り

◇全開プッシュの100km スプリントレース。

中嶋レーシングの大祐は12番グリッド、小暮は14番グリッドからスタート。大祐はうまくスタートを決め、その勢いのまま前車を猛追する。1台、また1台とパスしながら上位を目指していたところで、エキゾーストパイプが破損。結果10位でチェッカー。

一方の小暮は昨夜までの雨でスターティンググリッドが濡れていたせいもあり、スタートを決めることができず、クルマのバランスも完璧ではなく、一時順位を落とすもなんとか挽回し12位でチェッカーを受けた。

レース後、上位フィニッシュした車両が車検失格となり、大祐と小暮はそれぞれ9位、11位となった。

◇コメント

チームディレクター 藤井 一三

「大祐のレースペースはかなり良かったと思います。エキゾーストパイプの破損がなければと思うと残念です。一方小暮は難しいスタートも無難に決め、無事にチェッカーまで走ってくれました。これで今シーズンもすべて終了しました。皆様の応援に感謝致します」

#31 ドライバー 中嶋 大祐

「フィニッシュした順位は満足のいくものではありませんが、何度もオーバーテイクすることが出来てレースを楽しめました。レースペースは良かったのですが、途中大嶋選手と競り合っている頃にエキゾーストパイプが破損してしまい、そこからは若干ペースが鈍ってしまいました。その直後に山本選手に抜かれてしまったのが悔しいですが、悪くない締めくくりが出来たと思います。一年間ご声援ありがとうございました。

#32 ドライバー 小暮 卓史

「スタートはよく、順調に1周目をクリアできましたがフロントグリップを上げようとしたセッティングがマシンのハンドリングバランスに悪影響を与え、自分が意としたペースで走ることができませんでした。ドライビングをマシンの現状に合わせ、ラップタイムを

安定させながら走ることに集中しました。レース後半になるとマシンのバランスは少し落ち着いてきましたが、抜くには至らずレースが終わってしまいました。今回、保守的にならずに積極的に攻めのセッティングを施しましたが、結果が得られず残念です。ただ、新たなセッティングの方向性が見えてきたことは来年に向けてプラスになると確信しています」

中嶋 悟 総監督

「大祐は速さを見せたレースでしたが、少し残念な結果となってしまいました。スプリントレースなので、燃費などを気にすることなく全開のバトルで見ごたえはありましたが、結果は下位に沈んでしまいました。来シーズンはこの悔しさを晴らすべく開幕に向けてしっかりと準備をまいります。

今年も多大なるご声援をありがとうございました。来シーズンもチーム一丸となり戦っていきますので、よろしくお願い致します」